

大河原ロータリー

クラブ会報

例会日：毎週木曜日 12時30分

例会場：和洋亭 ぶざん

柴田郡大河原町字新南25-18
TEL 0224-51-1113

会長：村上 則夫

副会長：樽見 正仁

幹事：佐藤 能文

副幹事：丸山 勝利

広報・ICO

委員長：津田 政行

副委員長：岩間 範男

委員：岡崎 隆・佐藤克美・高橋大志

2017~2018年度
国際ロータリーのテーマ**ロータリー：
変化をもたらす****ROTARY:
MAKING A
DIFFERENCE**

2017-18年度 RI会長 イアン H.S. ライズリー

国際ロータリー第2520地区

2017-2018年度ガバナー 藤崎三郎助

事務所：〒989-1224 大河原町金ヶ瀬字町17 TEL0224-51-1400 FAX0224-51-1188 info@rotary-ogawara.com

2018年3月8日(木)第2453回例会

会長あいさつ**会長 村上 則夫**

皆さまこんにちは、本日も例会にご出席頂きましてありがとうございます。今日も午前中はちょっと雨が降り今は雨が上がっておりますが、一雨ごとに暖かくなってくるのかなという事で、3月になりまして暖かくなってきておりますが、花粉症が出てきておりまして、花粉症アレルギーのある会員の皆様は早めに薬を飲んで頂ければと思います、私も40代前半花粉症が辛かったのですが、最近あまり辛くならなくて別に薬を飲んだわけでもないのですけれども、何か耐性が出来たのか、とてもありがたいですね。そして本日はゲストスピーカーとして岩澤誠一さんにお出で頂きました、ありがとうございます。岩澤誠一さんとは小中高と同級生でありまして、学校も同じでありまして一緒に過ごさせて頂きまして、同級生にはSAAの福角勘治会員と高橋英明会員が同級生という事で、大河原の宝ですね、芸術家として大河原町の60周年にも表彰されておりまして、学校時代からその様な才能は発揮しておりまして、昔は結構奇抜な感じの絵も描かれていて普通の感じの絵じゃなくて結構変わった絵を描かれたなというふうに思っております、富士山の絵と何時も描いているモデルさんの絵ですね、今度家の奥さんで描いてくれと言ったのですけれども、中々厳しいというふうに言われまして、逆にお金を払えと言われまして、後は幹事ですけれども先日岩澤さんの所にスピーチのお願いに行き、幹事は家の会社に飾って置くんだと言いまして早速お願いをしまして、じゃ私もお願いしなくてはいけないなと思ってお願いをして来ました。今年中に描いて頂くことにしまして、後で岩澤誠一さんがお話になると思いますが写真と絵の違い、写真はデジタルカメラ等で撮っても印刷してしまうと日焼けをしたりすることがあるという事で、絵はその様な事は無いので、やはり写真と絵は別な感覚で取って頂ければ良いのではと此の間おっしゃっていましたので、じゃ私も是非という事で申し込みをして参りました。先週の土日大河原ロータリーカップ少年サッカー大会第12回が南小学校と大河原河川敷公園を舞台に開催されました、16チームの参加で少年団のサッカーチームはレギュラーは8名です、16チームと言うとそれだけで128人後は他のメンバーもいるので子どもさんだけで150名、あとはご父兄の方も沢山いらっしゃっていらっしゃいましたので200名ぐらいの人数になったのかなというふうに思っております、当日は私と幹事と広報委員長の津田さんと副会長の樽見さんにご出席頂きまして開会式を行いまして、優勝は平成24年に1回優勝して2回目という事で大河原スポーツ少年団が優勝しました、12回でまだ2回ですけれども私が会長の時によくも優勝してくれたなと思いましてですね本当に嬉しく思っております、そのチームのレギュラーとして高橋尚敏会員のお孫さんですね、あとは立石博政会員のお孫さんがレギュラーとして出場しておりまして大活躍をしておりました、決勝戦は1対1のスコアで

してPK戦で3対1で優勝を挽ぎ取ったという事で、子供たちの活躍を目の当たりにして、やはり素晴らしいなというふうに思っておりました。私の下の娘も大河原スポーツ少年団のOGとして2日間司会等のお手伝いをさせて頂きました。このサッカーに対する助成は私の時代は新世代委員会の中で初めさせて頂きまして今回で12回という事で、この12回続いているのも大河原サッカー協会の関さんが会長ですけれども、そのスタッフの皆さまの準備と言いますか設営が素晴らしくてこの様に続いているのかなというふうに思っておりました。スポーツは別にサッカーだけがスポーツではありませんので野球であったりいろいろあります、それはその代の会長さんなり委員長さんが、今度はこのようなスポーツに対して助成しても良いのではとなれば、どんどんご提案をして頂ければというふうに思っております。本日は以上でございます、有難う御座いました。

幹事報告

幹事 佐藤能文



皆さんこんにちは、本日も例会にご出席頂きましてありがとうございます。また岩澤様どうぞスピーチよろしくお願い致します。ご報告申し上げます、いろいろ60周年記念とかのご案内が来ておりますが、こちらに挟まれて無い方をご報告したいと思います、先ず17日インターシティーミーティングが竹駒神社で開催されます、バスを利用される方はぶざん12時30分出発ですので、バスを利用される方は間違いのないようご注意ください。あと出席関係で2件ほど連絡しておりますが一つは3月24日の創立50周年記念式典の後の大懇親会とグエンさんのお別れ会という事で案内している出欠関係、それからもう一つはゴルフ大会のご案内で出欠関係の案内をしておりますけれども、まだFAXで返信無い方も多数おられますのでどうぞそちらの方も確認なさって返信を宜しく願いたいと思います、本日は以上となります。

各委員会の報告

50周年記念式典委員会より 桜井淳一 総務委員会

皆さまへ1枚の資料を渡しましたが、会員全員の役割です、今まで役割をわからないでいる会員もおりまして不安になっている方もおりますので、全員載っているかと思っておりますので自分の役割を確認してください。来週も再来週も50周年に関する例会がありますので、その時に詳しくお話ししますけれども、大雑把に申し上げますと全員で行わないと成功しません、ですので全員の出席をお願い致します。詳細については来週再来週お話ししますけれども、いま一番悩んでいる事は会場設営委員会ですけれども、縦看板とか会場の設営を早めに行いたいと思います、案内では11時と書きましたけれども、この設営委員会は早めに出席の程お願いしたいと思います、心の準備をお願いします、以上実行委員会からのお願いでした。

米山BOXの報告 藤江裕佳里 委員長

立石博政会員 遅れました。

八島幸夫会員 少しずつ積立します。

スマイルBOXの報告 森徹 副委員長

八島幸夫会員 欠席続きました、画家の岩澤誠一様を歓迎致します。

村上則夫会員 ゲストスピーカーの画家岩澤誠一様本日スピーチ宜しくお願いします。

高橋尚敏会員 4日(日)に行われたスポ少サッカー、大河原ロータリーカップで、私の孫と立石様の孫の入っている大河原サッカースポーツ少年団が優勝しました、優勝は6年ぶりの事で岡崎会員には大

変お世話になりました。

森 徹 会 員 岩澤様スピーチ有難うございます、楽しみにしております。

出席の報告 櫻井俊寛 委員長

本日3月8日の報告を致します、本日は22名の出席で61.11パーセントでございます。

「プロ画家とアマチュア画家について」

画家 岩澤 誠 一 様



皆さまこんにちは、本日はお招きを頂きまして誠に有難う御座います。私、大河原生まれ大河原育ちの画家岩澤誠一と申します、本日は少しですがお話をさせて頂きます、どうぞ宜しくお願い致します。

先ず初めに私の現在の画歴を少しだけお話ししますと、宮城県芸術協会の運営委員をさせて頂いております、また4月に河北美術展の招待作家をさせて頂いております、この二紀会というのは東京で毎年10月に新国立美術館が六本木にございまして、そこで毎年二紀会の展覧会をさせて頂いております、作品は1,000点ぐらい集まって来ます、この数は入選作品のみでございますので実際はもっと集まってくるのですけれども、組織的には一番下が一般の方、その上が準会員、またその上が会員、あとは委員になります、ここに出品したのは27歳ぐらいの時でした。

2014年に一般から準会員の方に推挙頂きました、プロフィールとして画歴は少し後に詳しくお話ししますが、只今会長の方から簡単に話がありましたが、私の同級生で会長の村上則夫君と高橋英明君と福角勘治君がおりますけれども、大河原小学校・大河原中学校・高等学校は白石高等学校を卒業して、その後職をいろいろ遍歴しまして主に加工関係で技術関係の仕事をしておりまして、あとは建築関係の仕事をして、資格は施工管理の2級施工管理を持っています、大型免許もあります、大型の2輪4輪もあります、勤めていた企業は蔵王ニコンと代々木アニメーションという所でアニメーションを教える学校でデッサンの講師を2年半ほどしまして、その後は金型さんとか建築関係の仕事をして、その建築関係は先ほど一寸お話ししましたが、コスモ測量さんに務め現在のタカヤさん佐藤能文さんとも一緒に仕事をさせて頂きました、後は角田の渡辺建設さんに勤め、この会社では解体の仕事をしました、ひと通り大体の仕事はやったのですけれども、狙いが一寸ありまして最初ずっと工場関係の技術系でニコンに9年ほど勤めていたのですが、最終的に東京の大井町というところのニコン設計部に行ってくれないかと言われてまして、実は栄転だったので私には絵描きになるからと言って辞めました、その後工場関係の仕事をして来たので機械などは一通り全部使えるのですけれども、その時どうしても絵描きになりたくて、でも多分絵描きでは飯は食えないだろうと内心では思っていたのですが、どうやったら飯が食えるんだろうとその時自分でも解からなくて、それなら取り敢えず今直ぐは飯を食えるようには出来ないのでは建築家になろうと思って、アトリエは自分で作ろうと、絵描きをしてもそんなに儲からないし、むしろ食えるのだろうかと思ったので、それじゃ全部自分で出来るように身に着けようと思って建築の仕事をしようと思いましたが、高校は普通高校だしこの様な事をしてこなかったもので、建築の仕事に就いて現場で教えてもらって、資格も取って、ちょっとだけ自営で設計の仕事などもしていたの、その仕事もしながらアトリエは原価で作れるという状況になりました、2,000年に駅前のオーガで第1回目の個展を開きました、それがプロとしての最初の個展でした、それまではアマチュアという事で趣味で絵を描いていました、最初に絵に関わったのが10歳の頃1973年で、太田厚画伯がいらっしゃいますが、役場にも沢山の絵がありますけれども、太田先生のところへ一寸行かせて頂いて、そこで手習いと言いますか絵の勉強をさせて頂いて27歳頃まで習いました、16歳の時高校1年から2年に上がる時に河北展で初入選しまして、初入選して天狗になった訳ではないのですけれども、ちょっと勘違いしたと言いますか、こ

れ行けるんじゃないかと一発で入れるんじゃないのかなって勘違いしまして、その時水彩画で出したのですけれども、その後油絵を描きたいなと本格的に油絵を習って油絵の方がカッコいいなという感じで始めたのですけれども、そしたら途端に入選しなくなって1回しか入っていないのですけれども、それで8年9年ぐらいずっと落選続きでどうにもならなくて、やめようかなと思って俺才能無いのかなと思ったりもしたのですけれども、どうもずっと水彩画を描いてきたので油絵の使い方が満足にできていなかったようです、習っていると言っても自習ばかりで自己流ですから中々通用しなくて、それで随分悩んだりもしましたが、その時にどうしてもアマチュアでは無くて絵描きで飯を食いたいなという思いはあったので、それで今の藤崎の裏に太陽画廊という小さな画廊がありまして、そこに持って行って見て下さいと言まして、その時20代前半ぐらいでした、見てもらうと言うか殆ど門前払いだったのですけれどもその時にプロには程遠いと言われ、もうちょっと修行しなさいとも言われました、その時に今家に来ている作家の一人で高橋君というのが居るのですけれども、今二紀会に行っていて展覧会もしているから見て来いと言われて、それで二紀会の展覧会を見に行きました、太田先生は日展の先生でして日展と二紀会は実は絵画的なイデオロギーと言ったらおかしいのですけれども真逆な考え方で、ですから日展の絵を二紀会に出しても絶対に入選しないし、むしろ二紀会の絵を日展に出しても絶対ダメと言う殆ど反目しているわけではないのですけれども考え方がまるっきり違う正反対で、その様な事全く知らなくて二紀会の巡回を見に行った時に凄い衝撃をうけまして、本当にハンマーで頭を殴られる様な衝撃と言うか、こんな事やって良いのみたいな、日展は非常にオーソドックスですから日展の要綱の中にも具象画をやると言うのがきっぱりと書かれていて、二紀会と言うのは具象抽象を問わないしなんでも良い、好きな絵を描けと言うのが趣旨なので簡単に言えば右と左です完全に、それで今までずっと右だったのが急に左に行っちゃったと言うか、絵画的に言うとそれぐらい開きがある、その時に受けた衝撃と言うのは自分が本当の画家になりたいという思いに火を付けたと言うか、これではだめだと一から全部やり直さないだめだという事で、二紀会の門を叩いて、その頃たまたま河北美術展でちょんちょんと入選したのでじゃいいよという事で、支部展と云うのがありまして、宮城県に支部がありまして、その支部には入会させてもらったのです、本店は審査がありましたから、審査して落とされると展示もさせてもらえませんが、一応そこでしばらく描いていまして、二紀のほうでずうっと今もしていますけれども、今は二紀の準会員なのでその会の人間になってしまいましたので、他の会には出せないのですけれども、その様なところで2000年ぐらいまでコツコツと仕事をしながら画を描いて来まして、なぜ2000年に独立しようかと思ったのは絵画の世界でプロになろうと思った場合にはある一つの約束事と言うか決まりがありまして、別に絵描きになるのに資格も何もいらないのですけれども、プロになると言うちょっと話が変わってくるわけで、これに必要なのは何かというと年鑑に評価額を載せるというのがありまして、簡単に言いますと年鑑とは美術年鑑ですけれども、年鑑は何社かあって2番目に古く最大なのが美術年鑑で、評価額を査定してもらうのです、自分の絵を査定してもらう、そして値段をつけてもらって、それを基に価格を決め販売する、その様な形式になっています、ですからその絵の値段を第三者に値踏みしてもらいそれで価格を付ける、これは80年以上の歴史がありますからノウハウもありますから、これの招待状が来るんですよ、私絵を描いているから値段を出してほしいと言っても駄目なんです、最低限の実績がありまして、その最低限の実績とは全国区の展覧会で2回以上入選歴が無いとオレンジ色の封筒が来ないのですね、その様な事は彼らは全部チェックしていますから、絵は東京に殆ど集まって来るので東京の展覧会が年100件ぐらいあるのですけれども、それを全部チェックしているのですね、それで新しい作家が出てきた場合はその作家に案内を出して、住所氏名全部公表されますから、それでこの会に入りませんかという事で、プロを目指す人は対外入っていますね、ここでプロとアマチュアの違いはないのですけれども技術的には何ら問題ありません、要はそれで食っているか食っていないかの違いです、ですからアマチュアだから技術的に劣るとかプロだから上だとかその様な事は一切ありません、アマチュアだろうがプロだろうが技術的に変わらないのですけれども生活体系が違うだけ、ところがプロになりますとやはりお金を貰う訳ですので、それにはそれなりのノウハウがありまして、そうすると我々どうしても画家と云うものは先ず最初に実績を作ろうとします、いろんな所の展覧会に出品して賞を取って実績を作り、実績を作ればそのうち誰かが声を掛け

てくれるんじゃないかと、その様になぜか変な思いを皆さ持っていて私もそうなんですけれども、何か仕事から何処からか来るのかなとその様な感覚でいますけれども、実際問題その様な事は全く関係ないですね、ですから実績が有ろうが無かろうがやはり営業しないと仕事は貰えないですね、アマチュアの作家さんとプロの作家さんを分ける最大の要因はそこかなと、要は営業力ですかね、あとは実績は関係ないのかと言うとそうでもない、この様な物を大枚かけて買うのですから、当然そこに何かないと誰も手を出さないですから、そうなった時に、いやこの絵気に入ったから買うよと言う方もいます奇抜な方もいますけれども、ですが大概の方は本当にこの値段なの本当にこの値段で良いのみたいな感じでなんだか訳わからないよね、「雲を掴むような話だよね」「何でこんなに高いの」とかですね、その様な話だと思うのです、でもやはりそこで混乱をきたしております、沢山の誤解がありまして、まだ日本に洋画というものが明治の頃に入ってきて、その辺りから日本の洋画壇が形勢して日本の絵画は昔から伝統的工芸的なその様な絵画集団がありましたけれども、その様なものと別に洋画が入って来て個人的にそれを購入する様になった時に、はたまた値段どうしようとして実際その様な問題があったのです、そこで年鑑と言うものが出来てシステムが出来てきたんです。一時期、油絵を描いたら何でも売れるやと云う時期が実際あったのですが、我々世代より年配の世代昭和の初期ぐらいの方でしたらご存知かもしれません、その頃は先ほど紹介しました太田厚先生が実際元気で活躍していた頃は油絵だったらなんでも売れると、デパートさんもそれで作品が欲しいので何でも良いから持ってきてという時期がありました、ところがその後リーマンショックだとかありましてバブルが崩壊しまして、皆さん絵の事を言っている場合ではないと言って殆ど絵から撤退して一時期銀座の画廊さんはほぼ皆無くなったのです、全て貸画廊になって、時に電話来るのですけれど「企画でもあるのと」言いますと、「いや貸」と言いますと「貸じゃいいや」と言って断っております、貸と企画の違いはと言いますと企画と言いますのは画廊さんの企画でやるので私たちは一切お金を払わないのです、作品だけ送って、後は全部画廊でやってくれます、売るのは画廊で行い、つまり経費は画廊で全部持ちなんです、画廊の名簿を使ってしますので、その代わり売ればマージンを取る、ただ画廊もリスクがあるのでこの絵は絶対売れると踏まないしやらないですね、中々手を出さないです、ですから一番リスクが低いのが貸画廊です、この地域ですと一日当たり 10,000 円とか何千円ぐらいで貸すところもありますけれども、やはり東京ぐらいになりますと坪単価が高いので一週間位で 30 万 40 万ぐらいですかね、そのぐらい掛かるわけですし、お客さんは自分で集めなくてはならなし、ところが一週間ただ流れていく人達をどうやって集めるか、そこの画廊に来るお客さんが居るからと言いますけれども心配で信用出来ないのもそれじゃリスクが高すぎるよねという事で、今中々企画という仕事は無いですね、私は横浜に縁があつて松坂屋さんとかで個展をやらせてもらった時期があるのですけれども、今デパートさんは全部だめで松坂屋さんはそれも無くなったので出来なくなって、昔の様にデパートで絵を売るという形態は無くなりました、今まで自分で来た中で、だったら自分で全部してしまう、その様なものに頼らないで業者はその時だけだから、昔ですと例えば作家を育てる意気込みを持っていた画廊さんは何件かありました、こいつは物になるという利益度返しで食わせてその代わり大きくしてバックするという、本当に育ててそして売るというパターンでした、ですが今はその様な事をしている余裕がない、何処の画廊も余裕が無くてその場その場で画廊を貸しますからと言われたりします、作家も食われないので困る訳ですよ、そうすると負の連鎖が起きて来まして、絵の値段も下がって来ますし盛り下がって来ますので、絵に対する関心もどんどん下がって来ますのであまり良い状況になっていないのです、ですがその様な中で最近インターネットで直接オークションというのが簡単に出来る様になりまして、我々の先生と言いますか二紀会の元理事クラスの宮本三郎さんの絵がボロッと出たりしまして、とんでもない安い値段で出ていまして、出している本人はその絵の本当の値段を知らないでゼロが一つ足りないぐらいの値段で出るのですけれども、この様な事を見ると愕然として我々どうしたらいいのか、どの様にして飯を食べたら良いのかと思ったりしたこともありました、我々の仕事は隙間産業なのでその中で苦渋の選択であみ出したのがアトリエ全部解放、アトリエは絵を描く場所なので、そこにお客さんを呼ぶのは作家とすれば最初は抵抗ありまして、ですけれど買う側にして見れば、どうやって描いているのかなとか、どの様にして仕上がっていくのだろうかなど、本当にこの画家が描いているのだろうかなど、値段これで本当に良い

のかなどといろんな思いを巡らせてそれで多分お金を出してもらうのですね、見せた方が早いなと思ひましてどうぞ見て下さいとこの様にしています。全部オープンにしちゃえと、それで私のやり方と云うのは他のやり方と全然違うのは、ある種今までずうっとプロになろうとしてきましたが結局一般的に言われる様なやり方をしたら食べられなかったのです、宮城県で画家で飯を食べている画家は何人居ると思いますか？多分片手で間に合うと思います、実際に画家だけで食べている人はいないのですね、そもそも成功していない、成功していない人の話を聞いてもしょうがないと思ったので、全部捨てろ、今までのセオリーは全部捨てろ一切捨ててしまえ、成功者の話を聞けるのだったら良いのですけれど、失敗した人の話を聞いたら足を引っ張られるだけなので、それで一回捨てたのですね、画廊とはたまには付き合いますけれどその時だけ、向こうもその時だけ昔だと深い繋がりみたいなものがありましたけれど、深い繋がりでも仁義みたいなもので一蓮托生みたいなものがあるのですけれども今はその様なものではないので、本当に作家のつまみ食いしかしないので、だったらこちらもその様な事をさせられないように自分で絵を売っていくノウハウをつけないと画商さんとも対抗できないのですよね、作家でふんぞり返っていても飯食えないです、仕事は寝ていては来ないと、一つその中で初めた事がそこで店を作ってアトリエを作って、それも自分の手作りで70万円ぐらいで作ったのですけれども、壁も半分でそのままになっている様な状況ですけれども一応作業は出来ると絵も見せられるという状況になって、自分の居る時はアトリエを開けておく、家は元々魚屋でしたからそれは全然抵抗なくてやはり商売だと割り切りその様になった時にはやはり毎日開けるといのが一人ですしていますから中々開けられないですけれども、その様な事が結構重要なのかなと、ですから絵描きだから特別な事は一切なくて全く同じと言いますかむしろ実際してみたらそうだったみたいな、その様な感じで現在絵を描かせて頂いて、この様にお招き頂いていろいろお話しさせて頂ける立場になったのも、なんやかんやで地元の方から私は援助を受けて地元の方に支えられてやって来ているので、とにかく地元の方に還元したいなと、とにかく自分の評価は年鑑によって無限に高く、絵はほぼ据え置きでという値段でやって行こうと、そうすればちょっとはお返し出来るのかなと思って絵を描かせて頂いております、実はこの時に立てた目標が三つありまして、先ず一つには「宮城県芸術協会の運営委員になる」、次に「二紀会の準会員になる」、「その河北展招待作家になる」、この三つは達成し、また2011年に芸術協会の運営委員になり、2014年に二紀会の準会員になりました、2015年には河北賞これは予想外でしたね、招待作家は大体最低でも5回7回ぐらい授賞するとなれるのですけれども中々今空きが無くて、空きが無いと推挙されないのですけれども、たまたま運が良くて4回で推挙されたのですね、この様な事で何とか自分の最低限の目標はクリアしたと、それで今後ですけれども一寸この目標クリアした時に燃え尽き症候群みたいな全部そういうものが達成したら気が抜けた時期がありまして一年、ようやく最近戻って来まして新しい目標をこれから設定しようと思ひまして……。時間になりましたけれども最後にこれからの目標は「二紀会展の授賞」と、「二紀の会員になる」、「あともう一個全国のメジャーなコンクールで授賞・大賞を取る」、最後に「アメリカで個展をする」です。これを新しい目標に掲げて頑張っていきたいなと思ひます。時間が押し過ぎてしまいましたすみませんでした、どうもありがとうございました。

